

# 人権保育専門講座5

## 部 落 問 題 を 考 え る

一般社団法人コアプラス 武田 緑 さん



人権保育専門講座5は、一般社団法人コアプラスの代表理事である武田緑さんをお招きし、「部落問題を考える」と題してご講演いただきました。志摩、四日市、伊賀の3会場で、78名の方にご参加いただきました。

差別を許さない社会を構築するため、私たち一人ひとりが「差別に加担しない」という自覚をもつことや差別を許さない環境を整備していくことの重要性について、わかりやすくお話しいただきました。



\*\*\*\*\*  
はじめに、「部落問題」とはどのような問題なのかを、参加者とともに確認しました。

### 部落問題とは？

日本の歴史のなかで生まれ、つくられてきた差別問題。特定の地域にかかわりがあること（※地縁）や、祖先をたどると被差別身分につながる（※血縁）を理由に、現在も結婚や就職、その他の場面で差別や排除が起きている問題。

※ 地縁…被差別部落に現在住んでいる、過去に家族が住んでいた等、特定の地域にかかわりがあること。

※ 血縁…祖先をたどると被差別身分につながる。 （当日のレジュメより）

いま現在も、次のようなことが起こっています。

#### 土地差別

- ◆ 部落に対するマイナスイメージや、部落に住むことで自分が不利益を受けるのではという心理から、行政窓口や不動産業者等に差別的な問い合わせをするといった事象がおきています。

#### 結婚や就職の場面における差別

- ◆ 結婚や就職の場面で、部落に住んでいることや部落出身であることを理由に、反対されたり排除されたりすることが起こっています。

### 日常の人間関係のなかで起こる差別

- ◆ 日常生活のなかで、社会にある部落に対するマイナスイメージから、被差別当事者が差別的な発言を聞かされてしまうことがあります。部落問題においては差別的な発言をしている側が、当事者が聞いて傷ついていることにまで気づけていない場合があります。

### 当事者の不安

- ◆ 家族や、被差別当事者である友人等の被差別体験から、自分にはこれまで直接的な体験がなくても「差別に遭うかもしれない」と不安になってしまうことがあります。そうした不安は、新たな人間関係を構築するうえで大切な積極性まで奪ってしまいかねません。

\*\*\*\*\*

結婚や就職といった具体的な場面設定のもと、部落問題に対する認識を整理したり、自分がとるであろう態度や行動について考えたりするワークショップをしました。自分のなかに「差別を容認している価値観」や「差別を温存することにつながる意識」がないのかふり返る機会となりました。

### 《ワーク① ブレインストーミング》

**あなたがこれまでに得てきた「部落についての情報」を洗いざらい書き出してみよう。**

部落問題や被差別部落についてのイメージを、どんどん書き出しました。そして書き出した内容一つひとつについて、「それは事実なのかイメージ（印象）なのか」、また「全体（全員）に当てはまることなのか全体ではなく一部（の人）にしか当てはまらないことなのか」、5名ほどでグループをつくり考え合いました。それぞれのグループでまとめたものを、互いに見せ合い交流しました。



	事実	イメージ(印象)
はまる 全体にあて		
はまる 一部にあて		

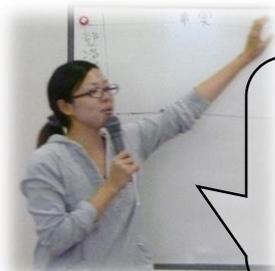
書き出した情報を整理してみよう。

思いつくまま付箋に書き出した「部落についての情報」を、シートの上で整理する。

- ☞ その情報は、「事実」か「イメージ」か。
- ☞ その情報は、「全体」に当てはまることか、「一部」のみに当てはまることか。

「部落」について見聞きしたことを事実なのかイメージなのか整理するなかで、どちらかに分けるということが実はむずかしいことに気がつきました。事実なのかそうでないのかも分けられないまま、なんとなく漠然と「部落」に対するイメージを社会がつくりあげてしまっていることに参加者は気づくことができました。

武田さんから、部落差別には「心理的差別」と「実態的差別」の二つの側面があるとお話しいただきました。



厳しい生活実態(実態的差別)から、心理的差別が温存されたり強化されたりしています。社会における低位性や厳しい生活実態は、その人たちの生まれもった“なにか”が原因なのではなく、差別による負の連鎖のなかで、社会的につくりだされた実態なのです。

また部落問題について考える際に、『差別はいけない』や『人にやさしくしましょう』などといった“心がけ”のみで取組が終わってしまうことがあってはならないという指摘をしていただきました。

事実かそうでないかもはっきりしない漠然とした『部落』へのイメージを論理的に整理することや、事実かどうか確認するということは、差別に立ち向かったり、差別に加担したりしないためにも、非常に重要なことです。



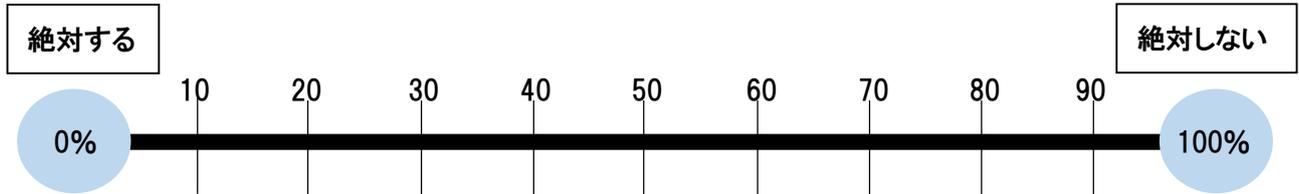
教育や福祉に携わる仕事は、差別による負の連鎖のなかにいる子どもたちにどれだけセーフティネットをかけ、どれだけ可能性を拡げることができるのか取り組む仕事であり、『実態的差別』と直接的に“闘う”仕事なのではないでしょうか。



## 《ワーク② 部落差別の現状を知るためのワークショップ》

### こんなときあなたならどうしますか？

下記の設定1～3について、自分がどんな行動をすると思うか、「絶対する（0%）」から「絶対しない（100%）」のものさしを使って、自分の立ち位置を考えました。



#### 【設定1】

結婚したいと思っている人が部落出身だという理由で親が反対しています。あなたは反対をおしきって、結婚しますか？

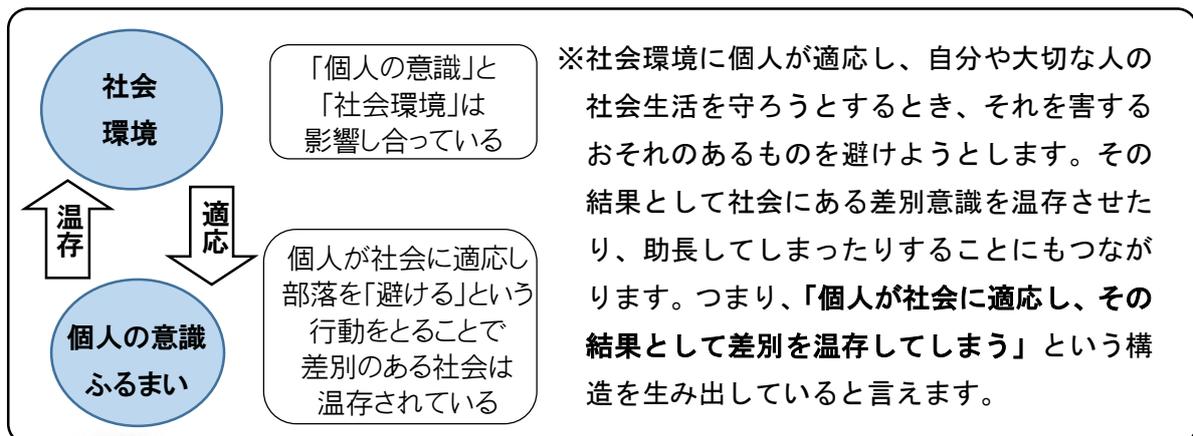
#### 【設定2】

特に印象のいい若者がいましたが、部落出身者のようです。経営者のあなたは採用しますか？

#### 【設定3】

家族で引っ越しを考えています。気に入った物件がありました。どうやらそこは部落のようです。その物件を買いますか？

設定の場面が1から3に進むうちに、ものさしの上で同じ場所に留まれない自分に気づいていきます。さまざまな関係性のなかで社会生活を営む私たちは、少なからず社会からの影響を受けながら暮らしているからです。



だからこそ、差別を容認したり温存したりしてしまうような生き方をしないために、『100%差別をしない！』というところにはずっとられない自分を認識することで、社会にある差別意識と自分とのかかわりを自覚していくことが非常に重要であると思うのです。



### 〈武田さんからの提言〉

部落差別解消のために

☆個人が自覚をもち「差別に加担しない」という選択をはっきりすること

☆「差別をさせない」「差別を許さない」という社会の環境づくり

の両面において取り組む必要があります。

### 【参加者アンケートより】

- ・ 「おかしい」「間違っている」という決めつけや偏見に対して、自分の行動はこれでいいのか、差別に加担しているのではないかと考え、立ちどまっていけるようにしたいと思いました。
- ・ 自分も弱い部分があることを知ると同時に、小さいことでも「あれ?」「おかしくない?」と立ちどまり、客観的にみつめていきたいと思いました。
- ・ 部落問題について考える研修を希望していたので、さまざまな方の意見を聞いたりしながら、考え、学ぶことができたのでとてもよかったです。知らないことを知ろうとする気持ち、学ぼうとする気持ちを大切にしたいと思いました。
- ・ 部落問題について深く考える研修でした。活動をとおして、部落問題について、本音と建て前を使い分けている自分に気づかされ、改めて、もっと考えたり、学んだりしていく必要があると強く感じました。
- ・ 今まで自分は差別をしないと思っていましたが、いろいろなグループワークをしていくなかで、世間に惑わされている自分がいて、自分の考えはどうなのだろうと考えさせられました。一人ひとりを「個」として捉え、その人の本来の姿をみていきたいと思います。
- ・ 部落差別の問題といってもはっきりとした定義や事実があるわけでもなく、だから問題はどこにあるのか…とっていました。人間の心のなかに弱い部分があり、それに各々が立ち向かわなければ差別はなくなるのだと思いました。人権教育に必要な視点を示していただき、大変勉強になりました。

